

実践的防災まちづくり コーディネーター養成講座

2006年

KUポर्टスクエア

本講座は文部科学省学術フロンティア推進事業と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。 よこはま福祉・保健カレッジ

内容

首都圏直下を震源とする大地震発生の切迫性が危惧されています。防災対策の基本は自助・共助・公助にあると言われていますが、急速な都市化、少子高齢化、情報化、生活環境の変化などにより、近隣扶助意識の低下など地域防災力の低下が指摘されています。地域防災力を高め維持していくためには、多様な生活環境を持った人と人との繋がりを基本とする人的ネットワー

クによる防災まちづくりが重要であると考えられていますが、地域の防災活動は、潜在的には住民一人一人として関心があるものの、適切な機会がないために実践できない住民も多いと思われます。このため、地域の防災まちづくりを実践するコーディネーター養成の講座を開設し、人的ネットワークにより地域防災力を高めることが本講座のねらいです。

定員 会場 申込期間

50名

KUポर्टスクエア

9月1日(金)～9月21日(木)

※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。
※お申し込み・お問い合わせはp.54をご覧ください。

受講料等

5,000円

※受講料には、資料代および消費税が含まれます。
※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。
※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。

講座日程

[開講時間] 14:00～16:00 全10回

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要
1	10/5(木)	荻本 孝久 大間知 倫	実践的防災まちづくり総論 講座の目的、内容の全体像を示す。対話形式で課題を取り上げて、今回の講座のねらいを説明する。
2	10/12(木)	神奈川県 横浜市	地域の防災環境を知る 地元である神奈川県、横浜市の防災対策とその取り組みについて取り上げ、特に、防災や減災に取り組む行政と市民の協働した活動の重要性について説明する。
3	10/19(木)	松山 順三	大震災の対応、復旧・復興の経験を生かす 1995年版神・淡路大震災の経験を神戸市よりのメッセージとして取り上げ、特に、防災福祉コミュニティ、復興まちづくりにおける行政と市民の活動について教訓を説明する。
4	10/26(木)	岩室 晶子	減災に取り組む防災まちづくり Part-1 子育て支援と防災まちづくりを取り上げ、子育て支援グループの取り組みについて説明する。
5	11/2(木)	秋山 哲男	減災に取り組む防災まちづくり Part-2 要援護者、特に高齢者支援と防災まちづくりを取り上げ、要援護者や高齢者支援グループの取り組みについて説明する。
6	11/9(木)	植山 利昭	減災に取り組む防災まちづくり Part-3 災害対応にはボランティアやNPOなど組織的な民間の組織が必要不可欠となる。防災対策や災害対応におけるボランティア活動と防災まちづくりを取り上げ、ボランティア活動グループの取り組みを説明する。
7	11/16(木)	内田 勝康	減災に取り組む防災まちづくり Part-4 災害に強い建物や市街地の防災まちづくりを取り上げ、防災まちづくりの視点から歴史的な防災対策の知識と災害に強いまちづくりの取り組みを説明する。
8	11/30(木)	中川 和之	減災に取り組む防災まちづくり Part-5 災害時の迅速な情報の受発信は重要な課題であり、情報ネットワークと防災まちづくりを取り上げる。情報ネットワーク活動グループの取り組みを説明する。
9	12/7(木)	川辺 裕子 戸川 優子	減災に取り組む防災まちづくり Part-6 防災まちづくり先進地区の活動を取り上げ、これまでに豊富な体験を重ねている横浜市くぬぎ台団地自治会、日限山小・中学校地域防災拠点の活動事例を説明する。
10	12/14(木)	森下 剛 池田 邦昭	講座のまとめ 実践的防災まちづくりコーディネーターの活動に向けて、本講座の主旨を再確認しつつ、受講者のレポートの作成と防災まちづくりについて討論を行なう。最後に、講座修了書の授与を行い、コーディネーター間の協働ネットワークづくりを目指す。

■総合司会進行：高橋 徳美

講師紹介

荻本 孝久(神奈川大工学部教授)/大間知 倫(地域防災研究所代表)/松山 順三(神戸市北区社会福祉協議会)/神奈川県/横浜市/岩室 晶子(特定非営利活動法人 Loveつづき)/秋山 哲男(首都大学東京都市環境学部教授)/植山 利昭(川崎・災害ボランティアネットワーク会議代表)/内田 勝康(内田建築設計事務所所長)/中川 和之(時事通信社「防災リスクマネジメントWeb」編集長)/川辺 裕子(さわやか港南・日限山自主防災懇談会)/戸川 優子(かながわ女性防災代表)/森下 剛(森下経営革新研究所代表)/池田 邦昭(セーフティリーダー [SL-A])/高橋 徳美(南区民会議防災分科会部会長)

実践的防災まちづくり コーディネーター養成講座

KUポर्टスクエア

2007年

本講座は文部科学省学術フロンティア推進事業と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。よこはま福祉・保健カレッジ

内容

現在、首都圏直下を震源とする大地震発生の切迫性が危惧されるなか、今年も各地で地震災害が発生しています。防災対策の基本は自助・共助・公助にあると言われていています。最近の急速な都市化、少子高齢化、情報化、生活環境の変化などにより、近隣扶助意識の低下など地域防災力の低下が指摘されています。地域防災力を高め維持していくためには、多様な生活環境を持った人と人との繋がりを基本と

する人的ネットワークによる防災まちづくりが重要であると考えられています。地域の防災活動は、潜在的には住民一人一人として関心があるものの、適切な機会がないために実践できない住民も多いと思われます。このため、今年度も地域の防災まちづくりを実践するコーディネーター養成の講座を開設し、人的ネットワークにより地域防災力を高めることが本講座のねらいです。

定員

50名

会場

KUポर्टスクエア

申込期間

8/25(土)~9/20(木)

※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。
※お申し込み・お問い合わせはp.54をご覧ください。

受講料等

5,000円

※受講料には、資料代および消費税が含まれます。
※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。
※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。

講座日程

[開講時間] 14:00~16:00 全10回

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要
1	10/4(木)	荻本 孝久 防災塾・だるま会員	講座をはじめるとあたって—いま、望まれる実践的防災まちづくりとは— 地域の防災活動の要点である自助・共助・公助についての考え方を中心にして、講座の目的・内容の全体像を説明の後、パネラーによる防災に関する経験談等の紹介する。
2	10/11(木)	荻本 孝久	地震はどうして起こる?—地域の地盤環境に関する基礎知識をもつ— 地震はどのようにして、どこに起きるのか、そして地盤によって地震の揺れが異なるので地盤と地震の揺れについて知ることは、自助・共助・公助の防災対策を進めるために必要であることを説明する。
3	10/18(木)	杉原 英和	神奈川県の防災環境について—防災対策の現状と課題を知る— 神奈川県の防災対策とその取り組みについて説明し、防災対策の要点を中心として行政と県民の協働した防災活動の重要性について説明する。
4	10/25(木)	小林 郁雄	神戸の復興から学ぶ—実践的防災まちづくりの要点をつかむ— 阪神・淡路大震災から12年が経過し、その間の復旧・復興の過程のなかで、さまざまな活動が行われた。神戸市の復旧・復興から学ぶ防災まちづくりの視点について説明する。
5	11/1(木)	中川 和之	災害時の情報ネットワークについて—情報の共有化とネットワークの重要性を理解する— 防災活動の情報は、事前の予防活動や事後の復旧・復興活動の情報もあるが、特に災害時の迅速な情報の受発信は重要である。そのための情報ネットワークと防災まちづくりについて説明する。
6	11/8(木)	石神 猛	災害時の要援護者対策について—自助・共助・公助に向けて— 災害時には高齢者、児童、傷病者、障害者、外国人など支援を必要とする要援護者の課題がある。災害時社会的支援必要者の救援システムの実状と対策、そして個人情報保護法との関係などを紹介する。
7	11/15(木)	岩室 晶子	減災に取り組む実践的防災まちづくり—横浜・都筑— まちづくりを音楽や芸術を通して行政・企業・地域そして子供たちと共に実践している具体的な活動を紹介する。
8	11/22(木)	市古 太郎	減災に取り組む実践的防災まちづくり—東京— 先進的に地域の地震防災対策に取り組んでいる巨大都市東京における防災まちづくりの実践的活動における実例を紹介し、防災まちづくりの視点と課題を説明する。
9	11/29(木)	植山 利昭	減災に取り組む実践的防災まちづくり—神奈川— 災害時にはボランティア活動による支援は必要不可欠になっている。これまでに実践した災害現場におけるボランティア活動を通し、事前と事後の地域の備え・心構え・取り組みについて考える。
10	12/6(木)	森下 剛 池田 邦昭	講座のまとめ—実践的防災まちづくりコーディネーターの活動に向けて— 講座の目的を実現するための課題についての受講者レポートの作成と防災まちづくりについて討論を行う。最後に、講座修了書の授与を行い、コーディネーター間の協働ネットワークづくりを目指す。

■総合司会：高橋 徳美

講師紹介

防災塾・だるま会員/荻本 孝久(神奈川大学工学部教授)/杉原 英和(神奈川県温泉地学研究所)/小林 郁雄(神戸山手大学教授・非認証NPOきんもくせい)/中川 和之(時事通信社「防災リスクマネジメントWeb」編集長)/石神 猛(神奈川県保健福祉部)/岩室 晶子(NPO法人I Love つづき)/市古 太郎(首都大学東京都市環境学部助教)/植山 利昭(神奈川県災害ボランティアネットワーク副代表)/森下 剛(森下経営革新研究所代表)/池田 邦昭(防災コーディネーター)/高橋 徳美(防災コーディネーター)

実践的防災まちづくり コーディネーター養成講座

2008年

KUポर्टスクエア

本講座は文部科学省学術フロンティア推進事業と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。よこはま福祉・保健カレッジ

内容

2007年には3月に能登半島地震が発生し、7月には新潟県中越沖地震が発生し柏崎市周辺で大きな被害が発生しました。また、2008年5月には中国四川省において四川大地震が発生して未曾有の大災害となりました。これらの震災の教訓は、地震への備えと地域の防災力の向上です。現在、首都圏直下を震源とする大地震発生切迫性が危惧されるなか、防災対策の基本は自助・共助・公助にあると言われています。最近の急速な都市化、少子高齢化、情報化、生活環境の変化などにより、近隣扶助意識の低下など地域防

災力の低下が指摘され、地域防災力を高め維持していくためには、多様な生活環境を持った人と人との繋がりを基本とする人的ネットワークによる防災まちづくりが重要であると考えられています。地域の防災活動は、潜在的には住民一人一人として関心があるものの、適切な機会がないために実践できない住民も多いと思われます。このため、地域の防災まちづくりを実践するコーディネーター養成の講座を開設し、人的ネットワークにより地域防災力を高めることが本講座のねらいです。

定員

50名

会場

KUポर्टスクエア

申込期間

9/1(月)~9/18(木)

※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。
※お申し込み・お問い合わせはp.54をご覧ください。

受講料

5,000円

※受講料には、資料代および消費税が含まれます。
※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。
※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。

講座日程

【開講時間】14:00~16:00 全10回

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要	■総合司会：高橋 徳美・黒須恵子
1	10/2(木)	荻本 孝久 防災塾・だるま会員	講座をはじめにあたって—地域の防災力を高める実践的防災まちづくりとは— 地域の防災活動の要点である自助・共助・公助についての考え方を中心にして、講座の目的・内容の全体像を説明する。また「あるべき防災まちづくり」についての取り組みとその課題についての報告を受け問題提起を行う。その後、パネルディスカッション。	
2	10/9(木)	杉原 英和	神奈川県の防災環境について—防災まちづくりのための防災対策の現状と課題を知る— 神奈川県の防災対策とその取り組みについて説明し、行政と市民の協働した防災活動の重要性について説明する。	
3	10/16(木)	近兼 拓史	震災体験から学ぶ都市防災知識と復興ボランティアの育成 被災地内の市民ラジオ局（fmラールズ）の設立と、その活躍。復興ボランティア団体の継続が難しい中、10年間のべ15万人以上のボランティアスタッフが活躍できた秘訣とは。阪神・淡路大震災時に神戸で被災し、地域の復興・復興に携わった経験から、事前の予防活動や事後の復旧・復興活動の要点について説明する。	
4	10/23(木)	池田 邦昭 中村 俊光 森下 剛	防災拠点づくりの実践と課題—実践的防災まちづくりの要点をつかむ— 横浜市における防災拠点づくりに携わっている責任者の方から行政と市民の協働した防災活動の重要性について説明する。また「あるべき防災まちづくり」についての取り組みと課題についての報告。その後、実践的防災まちづくりを進めるための実践的な取り組み方や進め方を解説する。	
5	10/30(木)	高橋 洋	災害時の要援護者対策について—自助・共助・公助に向けて— 災害時には高齢者、児童、障害者、障害者、外国人など支援を必要とする要援護者の課題がある。災害時社会的支援必要者の救援システムの現状と対策、そして個人情報保護法との関係などを紹介する。	
6	11/6(木)	山口 章 小原 茂 防災塾・だるま会員	防災拠点づくりの実践的進め方—防災まちづくりの横浜市における実践的な事例— 防災拠点づくりに携わっている責任者の方から実践的な取り組みと進め方についての報告。その後、パネルディスカッション。	
7	11/13(木)	正木 和明	地域・企業・家庭の防災カルテと防災教育—防災まちづくりにおける弱点の把握と克服の方策— 地域の防災力を高めるためには自助・共助・公助の観点から様々な取り組みが必要である。事前に災害に対する弱点を見つけて出し、それを克服するためには現状の把握が必要である。このため地域・企業・家庭における防災カルテを作成し災害に備える方法について、事前の地域への伝え、心構え、取り組みについて考える。	
8	11/20(木)	諏訪 清二	兵庫県における学校防災教育—兵庫県における市民を守る防災教育とその取り組み— 防災教育に取り組む教育課程（舞子高校環境防災科の取り組み）。地域の住民や子供たちと共に考える実践的な取り組みについて、いろいろな工夫や創作を含めて効果的な防災活動・イベントを紹介する。	
9	11/27(木)	市古 太郎	減災に取り組む実践的防災まちづくり—地域の防災力向上のための実践的な取り組み— 先進的に地域の地震防災対策に取り組んでいる巨大都市東京における防災まちづくりの実践的活動における事例を紹介し、防災まちづくりの視点と課題を説明する。	
10	12/4(木)	森下 剛 池田 邦昭	講座のまとめ—実践的防災まちづくりコーディネーターの活動に向けて— 講座の目的を実現するための課題についての受講者レポートの作成と防災まちづくりについて討論を行う。最後に、講座修了書の授与を行い、コーディネーター間の協働ネットワークづくりを目指す。	

講師紹介

<防災塾・だるま会員>森 清一（はだの災害ボランティアネットワーク代表）/大堀 紀子（磯子区自治会）/中島 光明（緑区市民会議）/田中 伸二（大井町自治会）/内田 晴之（大井町自治会）/伊東 幸保（神奈川区自治会）/山口 章（緑区自治会）/小原 茂（磯子区自治会）/中村 俊光（旭区市民会議）/森下 剛（森下経営革新研究所）/池田 邦昭（セーフティリーダー [SL-A]）/高橋 徳美（南区市民会議防災分科会）/黒須 恵子（地域防災を考える会代表）/荻本 孝久（神奈川大学）

<防災塾・だるま会員以外>杉原 英和（神奈川温泉地学研究所）/近兼 拓史（元西宮エフエム放送代表取締役）/高橋 洋（自治体職員（東京都練馬区役所））/正木 和明（愛知工業大学）/諏訪 清二（兵庫県立舞子高校）/市古 太郎（首都大学東京）

実践的防災まちづくり コーディネーター養成講座

2009年

KUポर्टスクエア

本講座は文部科学省学術フロンティア推進事業と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。よこはま福祉・保健カレッジ※「防災塾・だるま」とは、あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力の向上を図るとともに、防災に関わる情報共有化のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献することを目的とした市民防災の活動グループの名称です。

内容

2007年の地震災害に引き続き、2008年5月の中国四川大地震(M8.0)により建物被害約450万棟、人的被害約46万人に登る未曾有の大災害が発生したことは記憶に新しいところです。また、6月には岩手宮城内陸地震(M7.2)が発生し、東北地方で建物全半壊88棟・一部損壊約1,100棟、死者・行方不明者23名の被害が発生しました。いずれも内陸活断層による地震で、突発的に起きた大地震によるものです。地域住民は事前の防災対策の準備が十分ではない状況で地震災害に向き合うことになりました。震災の教訓は、地震への備えと地域防災力の向上です。現在、首都圏直下を震源とする大地震発

生の切迫性が危惧されるなか、防災対策の基本は自助・共助・公助にあると言われています。地域防災力を高め維持していくためには、地域住民が多様な生活環境を持った人と人との繋がりを基本とする人的ネットワークによる地域の防災まちづくりが重要であると考えられています。このような視点に立って、地域の防災まちづくりを実践するコーディネーター養成の講座を開講し、人的ネットワークにより地域防災力を高めることが本講座のねらいです。これまでに3年連続して開催されている本講座も、今年度は第4回の講座となります。

定員 会場 申込期間

50名

KUポर्टスクエア

9/1(火)~9/17(木)

※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。
※お申し込み・お問い合わせはp.54をご覧ください。

受講料等

5,000円

※受講料には、資料代および消費税が含まれます。
※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。
※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。

講座日程

【開講時間】 14:00~16:00 全10回

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要	■総司会：高橋 徳美・中村 俊光
1	10/1(木)	荻本 孝久 防災塾・だるま会員	一部：講座をはじめにあたって一地域の防災力を高める実践的防災まちづくりとは— 地域の防災活動の要点である自助・共助・公助についての考え方を中心にして、講座の目的・内容の全体像を説明する。 二部：地震はどのようにして起こる？—地域の地盤環境に関する基礎知識をもつ— 地震はどのようにして、どこに起こるのか、そして地盤によって地震の揺れが異なるので、地盤と地震の揺れについて知ることは、自助・共助・公助の防災対策を進めるために必要である事を説明する。 事例報告—実践的防災まちづくりについて— 「あるべき防災まちづくり」についての取り組みとその課題や問題提起を行う。	
2	10/8(木)	澤田 雅浩	新潟県中越地震の教訓と防災教育—体験から学ぶ防災対策— 新潟県中越地震時に長岡市で被災し、地域の復興・復興に携わった経験から、事前の予防活動や事後の復旧・復興活動の要点について説明する。また震災対応、特に災害に対する事前の備えとして、防災情報の共有化と人的ネットワークの重要性についても説明する。	
3	10/15(木)	杉原 英和	神奈川県での防災対策について—防災まちづくりのための防災対策の現状と課題を知る— 神奈川県の防災対策とその取り組みについて説明し、行政と市民の協働した防災活動の重要性について説明する。	
4	10/22(木)	防災塾・だるま会員	防災拠点づくりの実践と課題 (1)—地域 (横浜市)での取り組み— 横浜市における防災拠点づくりに携わっている責任者の方から行政と市民の協働した防災活動の重要性について説明する。また女性の視点から考える「あるべき防災まちづくり」についての取り組みと課題について説明する。	
5	10/29(木)	防災塾・だるま会員	防災拠点づくりの実践と課題 (2)—地域 (横浜市以外)での取り組み— 防災拠点づくりに携わっている責任者の方から実践的な取り組みと進め方についての報告。その後、パネルディスカッションを行う。	
6	11/5(木)	植山 利昭	防災ゲームを楽しむ—ゲームで実践的防災まちづくりのネットワークづくり— 防災情報の共有化や人的ネットワークをつくるためには、人と人のつながりが基本で、そのきっかけは防災ゲームを楽しむながらお互いの会話を実践すること。	
7	11/12(木)	正木 和明	地域・企業・家庭の防災カルテと防災教育—防災まちづくりにおける弱点の把握と克服の方策— 地域の防災力を高めるためには自助・共助・公助の観点から様々な取り組みが必要である。事前に災害に対する弱点を見つけ出し、それを克服するためには現状の把握が必要である。このため地域・企業・家庭における防災カルテを作成し災害に備える方法について、事前の地域の備え・心構え・取り組みについて考える。	
8	11/19(木)	荻本 孝久 防災塾・だるま会員	人的ネットワークの構築—ネットワーク構築のための交流を図る— 地域防災力を高めるためには、人的ネットワークが重要である。本講座受講生全員を対象として、本講座の受講目的や地域での防災への関わりなどの意見交換を行う。	
9	11/26(木)	荻本 孝久 防災塾・だるま会員	皆で語ろう地域の防災対策—自助・共助・公助に向けて— 災害時には、緊急対応として人命救出や消火活動など住民が協力して防災活動を展開したり、高齢者、児童、身体不自由者、病人、外国人など支援を必要とする要援護者対応の課題などがある。災害時の自主防災活動について意見交換を行う。	
10	12/10(木)	荻本 孝久 防災塾・だるま会員	講座のまとめ—実践的防災まちづくりコーディネーターの活動に向けて— 講座の目的を実現するための課題についての受講者レポートの作成と防災まちづくりについて討論を行う。最後に、講座修了書の授与を行い、コーディネーター間の協働ネットワークづくりを目指す。	

講師紹介

<防災塾・だるま会員以外>澤田 雅浩 (長岡造形大学教授)/杉原 英和 (神奈川県温泉地学研究所)/植山 利昭 (川崎災害ボランティアネットワーク代表)/正木 和明 (愛知工業大学教授)
<防災塾・だるま会員>荻本 孝久 (神奈川大学教授、防災塾・だるま塾長)/伊東 幸保 (神奈川区自治会)/鶴谷 賢昭 (防災士)/佐藤 忠文 (金沢区自治会)/白田 克雄 (南区自治会)/常光 明子 (男女共同参画センター横浜南)/山田 美智子 (ひらつか防災まちづくりの会)/森 清一 (はだの災害ボランティアネットワーク代表)/田中 伸二 (大井町防災まちづくりを推進する会代表)/池田 邦昭 (セーフティリーダー [SL-A])/中村 俊光 (旭区区民会議企画部会委員)/山口 章 (緑区防災拠点運営委員会会長)/小原 茂 (磯子区自治会)/志田 幸雄 (旭区自治会)/高橋 徳美 (防災コーディネーター)

実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

横浜キャンパス

<メインテーマ>避難所運営に係わる実践力の向上

2010年

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。

よこはま福祉・保健カレッジ

※「防災塾・だるま」とは、あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力の向上を図るとともに、防災に関わる情報共有化のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献することを目的とした市民防災の活動グループの名称です。

内容

現在、首都圏直下を震源とする大地震発生の切迫性が危惧されるなか、防災対策の基本は自助・共助・公助にあると言われています。

地域防災力を高め維持していくためには、地域住民が多様な生活環境を持った人と人との繋がりを基本とする人的ネットワークによる地域の防災まちづくりが重要であると考えられています。このような視点に立って、地

域の防災まちづくりを実践するコーディネーター養成の講座を開設し、人的ネットワークにより地域防災力を高めることが本講座のねらいです。

これまでに4年連続して開催されている本講座も、今年度は第5回の講座となり、地域の避難所運営に係わる問題にテーマを絞って開催することになりました。

定員	50名	受講料等	5,000円 ※受講料には、資料代および消費税が含まれます。 ※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。 ※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。
会場	横浜キャンパス 1号館8階 1-804		
申込期間	9/1(水)~9/16(木) ※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。 ※お申し込み・お問い合わせはp.54をご覧ください。		

講座日程

[開講時間] 18:30~20:30 全6回

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要	■総司会: 佐藤 忠文・中村 俊光
1	9/30(木)	荻本 孝久 杉原 英和	一部：講座をはじめるとあって——地域の防災力を高める実践的防災まちづくりとは本講座の目的・内容の全体像を説明する。 二部：神奈川県での防災対策について——防災まちづくりのための防災対策の現状と課題 神奈川県での防災対策とその取り組みについて説明し、行政と県民の協働した防災活動の重要性について説明する。	
2	10/7(木)	稲垣 文彦	体験から学ぶ防災対策——新潟県中越地震・中越沖地震の教訓と避難所運営 新潟県中越地震や中越沖地震を教訓に、災害時のボランティア活動に携わった経験から、事前の予防活動や事後の復旧・復興活動、避難所運営の要点について説明する。	
3	10/14(木)	増田 勝也 小野寺 勝	一部：平常時・災害時の公助——神奈川県での危機管理対策の現状と課題 神奈川県における公助（平常時・災害時）の現状とその課題について説明する。 二部：横浜市の危機管理対策について——改訂版拠点マニュアルの要点とは 横浜市における危機管理対策と拠点マニュアルの改訂事項を解説する。	
4	10/21(木)	森 清一	避難所運営を体感する①（導入編）——避難所運営ゲーム（HUG）を通して対応力を養う 災害時の避難所運営にはさまざまな対応が必要となる。その対応力を養うため、避難所運営ゲーム（HUG）を使って説明する。	
5	10/28(木)	福田 武司 小糸 昭平	一部：避難所運営を体感する②（団地編）——現任の避難所運営責任者から聞く 避難所運営（平常時・災害時）の現状とその課題について説明する。 二部：避難所運営を体感する③（戸建編）——避難所運営の達人から聞く 避難所運営（平常時・災害時）の現状とその課題について説明する。	
6	11/4(木)	荻本 孝久 池田 邦昭 中村 俊光	人的ネットワークの構築——本受講生とのネットワーク構築の為の交流を図る 地域防災力を高めるためには、人的ネットワークが重要である。本講座受講生全員を対象として、本講座の受講目的や地域での防災への関わりなどの意見交換を行う。 最後に、講座修了証書の授与を行い、コーディネーター間の協働ネットワークづくりを目指す。	

講師紹介

<防災塾・だるま会員以外>稲垣 文彦（中越防災安全推進機構復興デザインセンター）/小野寺 勝（横浜市消防局危機管理室）/福田 武司（左近山第二小学校地域防災拠点運営委員会）/小糸 昭平（神奈川区中丸町内会）

<防災塾・だるま会員>増田 勝也（神奈川県警察本部危機管理対策課）/杉原 英和（神奈川県温泉地学研究所）/荻本 孝久（神奈川大学工学部）/池田 邦昭（セーフティリーダー [SL-A]）/中村 俊光（ナカツ防災企画）/森 清一（はだの災害ボランティアネットワーク）/佐藤 忠文（横浜防災ライセンス・金沢）

実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

KUポर्टスクエア

<メインテーマ> 東日本大震災から学ぶ防災(減災)まちづくり

2011年

よこはま福祉・保健カレッジ

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。

※「防災塾・だるま」とは「七転び八起き」からネーミングされました。あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力の向上を図るとともに、防災に関する情報共有のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献することを目的とした市民防災の活動グループです。

※この講座では、ほかの多くの防災セミナー等と重なる「救急法」や「防災資器材の取り扱い」は取り上げておりません。

内容

防災まちづくりに地域で取り組んでいる方、市民の視点から地域防災に関心がある方のための講座です。

東日本大震災の衝撃が今も続き、さらに首都圏直下型地震発生の切迫性も続いています。一方で、生活環境の変化や少子高齢化などによって近隣扶助意識の面などで地域防災力低下の懸念を指摘する声もあります。地域・市民が否応なしにやってくる危機と正面から向き合っ、自分の住む地域でどのような災害が起こりやすいか、災害の時にどんな対応ができるのか、復旧・復興に向けてど

う行動すべきかといったイメージを持つこと、そして、行政に任せ切るのではなく、「自助・共助・公助」の基本に従って防災まちづくりに活かすことは、われわれ自身がなすべき責務と言えます。東日本大震災から学ぶこともたくさんあります。防災まちづくりを実践するコーディネーターを養成し、多様な生活環境を持った人と人との人的ネットワークによって地域防災力を高める力となることを目的として、今年度も講座を開催することとしました。2006年の第1回から数えて第6回目となります。

定員 50名 ※先着順に受け付け、定員に達し次第締め切ります。

会場 KUポर्टスクエア

申込期間 9/1(木)~9/15(木)

※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。

※お申し込み・お問い合わせはp.54をご覧ください。

受講料等

5,000円

(第2回および第10回の講座終了後の交流会の費用は別途)

※受講料には、資料代および消費税が含まれます。

※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。

※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。

講座日程

[開講時間] 14:30~16:30 全10回

■総合同会：小原 茂

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要
1	9/29(木)	荻本 孝久	講座を始めるにあたって 実践的防災まちづくりで東日本大震災から何を学ぶか、講座の目的の全体像を共有、東日本大震災の現地調査を踏まえて本講座の課題を提起する。
2	10/6(木)	松山 順三	阪神淡路での行政経験者が現地を見て対比して語る 東日本大震災での復旧・復興への支援活動で、阪神淡路での経験が具体的にどう活かされ、そこからどんな課題を見たかを、阪神淡路の経験と対比して語る。(終了後に交流会)
3	10/13(木)	佐々木義雄 浦辺 利広	被災者の叫び！岩手県山田町からの報告 地域全体が失われる切迫した状況で何を考えてどう判断し行動したのか、なぜそうなったのか、講師自身の被災経験を率直に語ってもらい、教訓・課題を提起する。
4	10/20(木)	植山 利昭	被災地からのニーズと支援の実態：課題とあり方 被災地からのニーズは何か、支援はどう応えようとし、どんなギャップや課題があるのかを、実態を踏まえて分析し、これから先の支援のあり方を提言する。
5	10/27(木)	森 清一	クロスロード・ゲーム(全員が発言し主張する) 「クロスロード」=「岐路」でそれぞれが重要な判断を「YES」「NO」で表明するゲームを通じて体験し、災害時の「予め正解のない様々な状況や問題」にどう対処するかを学ぶ。
6	11/10(木)	杉原 英和	行政の新たな役割と課題を分析紹介する 大災害と地震研究・対策を歴史に沿って対比し、東日本大震災で浮かび上がってきた長周期地震動、液状化、原子力災害などの新たな課題と行政の役割を分析紹介する。更に防災まちづくりで市民と行政が「協働」することの重要性を取り上げる。
7	11/17(木)	上原美都男	防災まちづくりへの行政の取り組みと課題を提言する 行政が防災まちづくりに果たしてきた役割と東日本大震災から新たに明らかになった課題に切り込み、大胆に提言する。
8	11/24(木)	山口 章	防災まちづくりの実践活動を紹介する どのように実践的な活動を進めているのか、東日本大震災による新たな課題にどう取り組んでいるのかを紹介し、その中で市民と行政の協働のあり方を提起する。
9	12/1(木)	小原 茂	ワークショップ(災害に備えての参加各人の考え方を述べ意見の交換をする) 自分の住む地域でどのような災害が起こりやすいか、災害時にどんな対応ができるか、復旧・復興に向けてどう行動すべきかといった視点から、グループ討議する。 ※第9回のみ、横浜キャンパス1号館8階804会議室で行います。詳細は講座内でご案内します。
10	12/8(木)	荻本 孝久 池田 邦昭	ワークショップの発表と講評・講座全体のまとめ ワークショップ(第9回)のまとめを各グループから発表し、主催者からの講評を受ける。最後に、講座修了書の授与を行い、実践的防災まちづくりコーディネーターの活動に向けて協働ネットワークづくりを目指す。(終了後に交流会)

講師紹介

荻本 孝久(神奈川大学工学部教授、防災塾・だるま塾長)/松山 順三(元神戸市職員、宮城県名取市で復興アドバイザーとして活動)/佐々木 義雄(岩手県山田町出身、横浜市緑区;まちづくりネットワーク緑)/浦辺 利広(岩手県山田町で被災、横浜市に避難後在住)/植山 利昭(神奈川県;かながわ東日本大震災ボランティアステーション代表)/森 清一(神奈川県栗原市;はだの災害ボランティアネットワーク副代表)/杉原 英和(神奈川県温泉地学研究所)/上原 美都男(危機管理アドバイザー、前横浜市危機管理監)/山口 章(横浜市緑区;白山地区連合自治会会長)/小原 茂(横浜市磯子区;滝頭・磯子まちづくり協議会)/池田 邦昭(横浜市緑区;まちづくりネットワーク緑)

実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

KUポर्टスクエア

<メインテーマ>地域にいかす「防災・減災」知識と知恵を学ぶ

2012年

よこはま福祉・保健カレッジ

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。

※「防災塾・だるま」とは「七転び八起き」からネーミングされました。あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力の向上を図るとともに、防災に関する情報共有のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献することを目的とした市民防災の活動グループです。

内容

本講座「防災まちづくりコーディネーター養成講座」は、今年、第7回目を迎えました。毎年、10回シリーズで各方面から講師をお招きして回を重ねてきました。当初は1995年「阪神・淡路大震災」の後で、「自助・共助・公助」が防災の重要な視点であるとの教訓が広まる中、何をどのように事前対策として災害に備えるか、暗中模索の中で本講座がスタートしました。7年が経過して本講座の主旨が浸透してきて、地域の防災活動における取組や地域の災害環境に関する知識が増え、防災情

報の共有化と人的ネットワークの構築が進んでおります。今年度は昨年3.11東日本大震災の発生による大規模・広範囲な災害を前に、市民として住民として、改めて地域住民としての「自助・共助」の取組に関して考えてみたいと9回シリーズで本講座を企画いたしました。「防災・減災」に関心のある方々が、市民・NPO・企業・行政などの背景を超えて、共に集い「防災・減災」に向けた情報の共有化を図りたいと思います。

定員・会場・申込期間

50名 ※先着順に受け付け、定員に達し次第締め切ります。

KUポर्टスクエア

9/1(土)~9/20(木)

※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。
※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。
※お申し込み・お問い合わせはp.58をご覧ください。

受講料等

5,000円 (4,500円)

※受講料には、資料代および消費税が含まれます。
※()内の受講料は、神奈川大学生・卒業生等および協議会加盟大学在学学生 (p.6) に適用される料金です。
※受講者区分が一般で、前年度、生涯学習・エクステンション講座の受講歴 (一部講座除く) がある方は、受講料を5%割引します。

講座日程

※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。

【開講時間】 15:00~17:00 全9回

■総合司会：成松 洋

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要
1	10/4(木)	小野寺 勝	行政の視点での災害対策——横浜市防災対策・津波ガイドラインなど—— 横浜市における防災計画並びに津波に関するガイドラインなど、行政の視点から災害の対策について説明する。
2	10/11(木)	吉井 博明	災害情報論という立場で——東日本大震災級の巨大地震にどう備えるか—— 地震学、防災工学、都市防災学など多くの分野に想定外の大きなショックを与えた。その結果、地震・津波等を想定とし、ハードとソフトを組み合わせた減災への自助・共助・公助の役割分担と連携などについて説明する。
3	10/18(木)	吉田 明夫	県防災体制について——東海地震や相模トラフ沿い地震など—— 東海地震や相模トラフ沿いへの影響、誘発地震の可能性、富士山噴火につながる恐れなどの情報と国や県の防災体制の見直しの方向などを説明する。
4	10/25(木)	坂本 正人	被災地からのメッセージ——東日本大震災の被災状況と復興について—— 被災地の復興という困難な状況下で、実際に行動して気仙沼人情商店街と名付ける約50の仮設店舗をまとめ、行政側との折衝や仮設場所の地権者交渉等乗り越えて、仮設店舗開設に導いた道のりと現在を説明する。
5	11/1(木)	大尾美登里	女性の視点を地域防災の力にする——東日本大震災の実情や地域での防災講座をもとに—— 事例報告①:男女共同参画センター横浜北「わたしの防災力ノート」地域出前学習会のとりくみから防災につながる地域の安心づくり、もしもを支えるいつもの安全網を考える。 事例報告②:被災地支援活動、特に女性や子供たちの避難所での実情を講師の活動から聴き、平時の防災活動にいかす教訓を考える。 活動事例報告①②をもとに、多様化する災害時の弱者への配慮とこれからの地域防災の担い手に求められる視点を考える。
6	11/8(木)	伊東 幸保	地域の防災活動実践者に聞く——自治会・町内会の防災部長としての活動—— 事例報告:現在、地域の防災リーダーとしての活動内容で、その結果の成功例、失敗例や今後めざして行く防災活動の方向性などについて説明する。 活動事例報告をもとに地域での防災活動を通して養った「防災活動と地域活動」という視点で実践部隊作りやフローチャートなどについて説明する。
7	11/15(木)	森 清一	新版HUG——避難所運営についてゲームを通して考える—— 通常の「避難所運営ゲーム」に対し、ディスカッションを取り入れた図上訓練を体験し、実際の災害時の避難所運営に生かす「新版HUG」を行なう。
8	11/22(木)	白田 克雄	防災クイズ——防災豆知識を出題し受講生が回答する—— 防災に関する豆知識をクイズ方式にて出題。その回答と解説を行う。
9	11/29(木)	成松 洋 池田 邦昭 荻本 孝久	ワークショップ——皆で語ろう地域の活動—— 防災・減災をどう考え、どう防災活動を実践するか等のグループ討議を行う。 最後に、講座のまとめと講座修了書の授与を行い、コーディネーター間の協働ネットワークづくりをめざす。

講師紹介

小野寺 勝(横浜市消防局危機対応計画課課長) / 吉井 博明(東京経済大学教授) / 吉田 明夫(神奈川県温泉地学研究所所長) / 坂本 正人(気仙沼南町柏崎青年会会長) / 大尾 美登里(NPO法人中途障害者地域活動センター所長) / 伊東 幸保(神奈川区二ツ谷町会防災部長) / 森 清一(はだの災害ボランティアネットワーク副代表) / 白田 克雄(平成24年度講座運営委員会総括リーダー) / 成松 洋(平成24年度講座運営委員会サプリーター) / 池田 邦昭(セーフティリーダー[SL-A]、防災塾だるま副塾長) / 荻本 孝久(神奈川大学工学部教授、防災塾だるま塾長) <協力者> 常光 明子(男女共同参画センター横浜北事業課長) / 白藤 香織(男女共同参画センター横浜北事業課職員) / 中村 俊光(旭区希望が丘東地区連合自治会副会長)

実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

KUポートスクエア

<メインテーマ> 地域にいかす「防災・減災の知識・知恵」を学ぶ

2013年

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。

※「防災塾・だるま」とは「七転び八起き」からネーミングされました。あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力の向上を図るとともに、防災に関わる情報共有化のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献することを目的とした市民防災の活動グループです。

内容

本講座「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」の初回は2006年に開催され、今年で8回目を迎えました。

1923年の関東大震災から90年、1995年の「阪神・淡路大震災」から18年が経ちましたが、その後、幾つもの大震災が発生し、2年前の東日本大震災では多くの犠牲者をだしました。その間、国も市も災害に対する被害想定の見直しを迫

られ、今年になって、「横浜市防災計画」の改訂版が発行されました。横浜市は防災対策を大幅に見直し、各地域はそれに基づき、「住民を守る体制の再構築」が求められています。そして、さらに多くの市民の協力が要求されています。

この講座は、「自分達の町は、自分達で守る」防災・減災活動に、貢献できる人材の育成を目指します。

定員 会場 申込期間	50名 ※先着順に受け付け、定員に達し次第締め切ります。	受講料等	5,000円(4,500円) ※受講料には、資料代および消費税が含まれます。 ※()内の受講料は、神奈川大学生・卒業生等および協議会加盟大学在学学生(p.6)に適用される料金です。 ※受講者区分が一般で、前年度、生涯学習・エクステンション講座の受講歴(一部講座除く)がある方は、受講料を5%割り引きます。
	KUポートスクエア		
	9/3(火)~10/10(木) ※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。 ※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。 ※お申し込み・お問い合わせは p.58 をご覧ください。		

講座日程

※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。

【開講時間】 13:30~17:00 全6回

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要	■総合司会：成松 洋、山田 美智子
1	10/24(木)	荻本 孝久	近々くると想定されている「首都圏大地震の被災規模とひっ迫性」を学ぶ 前半：大地震はどんな被害をもたらすのか、何時頃来ると想定されているか、を学ぶ。 後半：受講生の自己紹介を含め、地域の防災・減災活動の現状を話し合う。	
2	10/31(木)	佐藤 榮一	被災地から学び、地域に活かす。 前半：被災地で聞いた体験した事の説明から、それを地域で活かすことを学ぶ。 後半：受講生は被災地の状況を聞いた後、わからない事、疑問に感じた事を、質問を交え体験者から直に聞く。	
3	11/7(木)	小野寺 勝	横浜市の「防災計画」を学ぶ 前半：多くの災害から被害想定を練り直し、市民を守る為に改訂した「防災計画」を説明する。 後半：「防災計画」を聞いた後、質疑応答・意見交換会にて内容を習熟する。	
4	11/14(木)	白田 克雄	地域での防災活動実践者の話を聞き、地域に活かす術を学ぶ。 前半：地域の防災活動の現状(自主防災組織の体制、活動内容等)を説明する。 後半：自分の地域と何処が違うか、どうしたら防災活動を充実できるか等を質疑応答を交え学ぶ。	
5	11/21(木)	片山 晋	命に関わる発災直後の1時間について考える。 前半：「発災直後の1時間」に、①何が起こるか、②我が地域で何をすべきか、③自分はどう行動するか、などを学び、J-DAG(発災直後の行動ゲーム)を通して模擬体験する。 後半：ゲーム後の意見交換会にて、我が地域の取り組みについて考える。	
6	11/28(木)	高松 清美 田中 喜世美 山田 美智子	首都圏大災害を想定し、対策を学ぶ。 前半：①かならず来る「首都圏大災害」の想定される被害を学ぶ。 ②自分の地域で、防災活動に参加し地域貢献をする手段を探る。 後半：①講座全体の講評 ②アンケート記入 ③講座修了証書授与	

講師紹介

佐藤 榮一(消防科学総合センター(一財)防災図上訓練指導員) / 小野寺 勝(横浜市総務局危機管理室危機対処計画課長) / 荻本 孝久(神奈川大学工学部教授、防災塾・だるま塾長) / 池田 邦昭(まちづくりネットワーク総役員) / 白田 克雄(元南区六ツ川地区連合防災部長(チーム防災六ツ川代表)、だるま理事) / 片山 晋(防災を考える会・磯子代表、だるま理事) / 高松 清美(NPO 法人神奈川県災害ボランティアネットワーク理事、だるま理事) / 田中 喜世美(神奈川県白幡地域防災拠点運営委員、だるま理事) / 山田 美智子(ひらつか防災まちづくりの会役員、だるま理事) / 成松 洋(都筑災害ボランティアコーディネーター、だるま理事) / 伊東 幸保(神奈川区二ツ谷町会防災部長、だるま理事)

実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

KUポर्टスクエア

<メインテーマ> 防災・減災の考え方と対応策を学び、地域の防災力を高める

よこはま福祉・保健カレッジ

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。

※「防災塾・だるま」とは、「七転び八起」からネーミングされました。あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力の向上を図るとともに、防災に関わる情報共有のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献している市民防災の活動グループです。

内容

この講座は、最新の情報を学習しながら「自分の町は、自分達で守る」防災・減災活動に貢献できる人材の育成を目指しています。

来年1月には阪神・淡路大震災から20年、要援護者が注目された新潟県中越地震から10年、東日本大震災からはすでに3年が経過しております。現在防災・減災対策を見直し、地域では「市民を守る仕組みの再構築と定着化」に取り組んで

います。特に東日本大震災では災害時要援護者の犠牲が多く、日頃からのつながりや支援活動を組み込んだまちづくりが必要です。今年度は地区防災計画が提示され、近々予測される首都直下地震時には、自助と共助を活かした地域防災力の普及で乗り切るよう、コーディネーターの養成が急務となっています。

2014年

定員 会場 申込期間

50名 ※先着順に受け付け、定員に達し次第締め切ります。

KUポर्टスクエア

9/2(火)~10/9(木)

※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。

※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。

※お申し込み・お問い合わせは p.66 をご覧ください。

受講料等

5,000円(4,500円)

※受講料には、資料代および消費税が含まれます。

※()内の受講料は、神奈川大学生・卒業生等および協議

会加盟大学在学学生(p.6)に適用される料金です。

※受講者区分が一般で、前年度、生涯学習・エクステンション

講座の受講歴(一部講座除く)がある方は、受講料を

5%割引します。

講座日程

※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。

【開講時間】 13:30~17:00 全6回

■総司会：田中 晃

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要
1	10/23(木)	森田 清 土田 博美	被災地の現実・本質を学び、地域で活かす 前半：震災被災地で消防士が感じた、減災行動の必要性 後半：災害時に役立つ隣近所の助け合い・見守り、災害時要援護者について学ぶ
2	10/30(木)	山口 章 片山 晋 増田 智代 山田富士男	地域防災力を向上する 避難所(地域防災拠点)と自治会・町内会が連携した地域づくりを学ぶ ※行政と各種団体との連携、情報管理、家具転倒防止などのノウハウも学ぶ
3	11/6(木)	荏本 孝久	災害の発生と復興のまちづくりを評価する 前半：地震のメカニズムと首都直下地震のひっ迫性を学ぶ。さらにまちづくりを考える 後半：受講生の自己紹介と地域の情報交換を行う
4	11/13(木)	杉原 英和 黒岩 大輔 黒岩 清隆	国・県・市の防災対策と今後の動きを理解する 前半：神奈川の今後の地震対策を考える 後半：災害医療対策について/要援護者対策について
5	11/20(木)	森 清一	防災図上訓練で地域を知る 前半：各種の防災ゲームを知る 後半：クロスロードゲームによる災害図上訓練を学び、普及啓発活動を行う
6	11/27(木)	伊東 幸保	講座に参加しての総合評価と自分の目標を定める 前半：防災塾・だるまの先輩から学ぶ/受講者が聞きたい事項を先輩から回答する/先輩の苦労話を聞く 後半：防災塾・だるままで学んで、防災活動家として地域デビューしよう (まとめと発表を行う。災害時要援護者が地域で生きる、も含む)

講師紹介

森田 清(横浜市消防局横浜市民防災センター所長) / 土田 博美(横浜市、教育学博士・看護師) / 山口 章(横浜市緑区、白山地区連合自治会会長) / 片山 晋(磯子区、防災を考える会・磯子代表) / 増田 智代(神奈川区、子安通三丁目自治会災害対策室長) / 山田 富士男(足柄上郡大井町防災まちづくりの会) / 荏本 孝久(神奈川大学工学部教授、防災塾・だるま塾長) / 杉原 英和(神奈川県安全防災局安全防災部災害対策課長) / 黒岩 大輔(横浜市健康福祉局医療政策室医療政策課救急・災害医療担当課長) / 黒岩 清隆(横浜市健康福祉局地域福祉保健部福祉保健課福祉保健センター担当課長) / 森 清一(秦野市、SL災害ボランティアネットワーク、防災塾・だるま副塾長) / 伊東 幸保(神奈川区二ツ谷町会防災部長) / 田中 晃(横浜市緑区、まちづくりネットワーク緑、養成講座リーダー)

実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

KUポートスクエア

<メインテーマ> 防災の実践事例を学び、地域力で生き延びる

よこはま福祉・保健カレッジ

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し提供するものです。今回で10回目を迎えます。

※「防災塾・だるま」とは、あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力の向上を図るとともに、防災に関わる情報共有化のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献している市民防災の活動グループです。

内容

この講座は、近々予測される首都圏直下地震に備え、防災・減災に関する最新の情報を学習しながら「自分達のまちを、自分達で守る」仕組みの具体化と定着化に貢献する人材の育成を目指しています。

このため、災害リスクを最小限に抑える実践事例や失敗事例を学び、自分が、地域が、生き延びる手法を身につけます。特に、初心者でも経験者

でも役立つ内容です。

阪神・淡路大震災から20年、新潟県中越地震から11年、最近の東日本大震災の経験と反省を踏まえ、その地域に合った防災まちづくり・人づくりが各地で進められています。このための橋渡しをするコーディネーターを本講座で養成するものです。

2015年

定員	50名 ※先着順に受け付け、定員に達し次第締め切ります。	受講料等	5,000円(4,500円) ※受講料には、資料代および消費税が含まれます。 ※()内の受講料は、神奈川大学生・卒業生等および協議会加盟大学在学学生(p.6)に適用される料金です。 ※受講者区分が一般で、前年度、生涯学習・エクステンション講座の受講歴(一部講座除く)がある方は、受講料を5%割引します。
会場	KUポートスクエア		
申込期間	9/1(火)~9/24(木) ※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。 ※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。 ※お申し込み・お問い合わせは p.66 をご覧ください。		

講座日程

※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。

[開講時間] 13:30~17:00 全6回

■総合司会：田中 晃

回	開講月日	担当講師	テーマ/概要
1	10/8(木)	荻本 孝久	災害の発生と復興のまちづくりを評価する 前半：首都直下地震のひっ迫性を学ぶ。さらに復興まちづくりを考える 後半：受講者の自己紹介と各地の情報交換を行う
2	10/15(木)	杉原 英和 芝山 智	国・県・市の防災対策と今後の動きを理解する 前半：新しい神奈川県地震被害想定調査の結果と今後の地震対策を考える 後半：災害医療の仕組みについて
3	10/22(木)	和知 治 岡野 敏明	被災地の現実・本質を学び、地域で活かす 前半：震災被害の状況と減災行動(横浜市危機管理センターの機能を含む) 後半：災害医療・健康の専門家から「専門的活動をサポートする市民の対応を学ぶ」
4	10/29(木)	山岡 悦子 篠原 憲一 濱田 政宏	防災の実践事例を学ぶ [地域ケアプラザの地域防災支援の取り組み] [防災活動という絆づくり] [減災・災害対応活動分野における行政とボランティア団体の協働活動]
5	11/5(木)	森 清一	防災図上訓練で地域を知る 前半：各種の防災ゲームを知る 後半：クロスロードゲームによる災害図上訓練で学び、普及啓発活動を行う
6	11/12(木)	片山 晋	講座に参加しての総合評価と自分の目標を定める 前半：自主防災活動の苦労話を聞く/情報収集の仕方を学ぶ 後半：学んだことを地域にどう生かすか、チーム別まとめと発表を行う

講師紹介

荻本 孝久(神奈川大学工学部教授、防災塾・だるま塾長) / 杉原 英和(神奈川県安全防災局安全防災部災害対策課長) / 芝山 智(神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課長) / 和知 治(横浜市総務局危機管理室危機対処計画課長) / 岡野 敏明(公益社団法人川崎市医師会副会長) / 山岡 悦子(横浜市六角橋地域ケアプラザ所長) / 篠原 憲一(ひらつか防災まちづくりの会代表) / 濱田 政宏(だるま災害ボランティアネットワーク代表) / 森 清一(公益社団法人SL災害ボランティアネットワーク理事) / 片山 晋(防災を考える会・磯子代表) / 田中 晃(防災塾・だるま理事)